Choreonoid モデル作成方法マニュアル

名城大学メカトロニクス工学科 ロボットシステムデザイン研究室 2017年1月11日

1. はじめに

本書の目的は動力学シミュレータである Choreonoid のモデルを作成する方法を解説することである. ここで解説する手法は数多くあるモデル作成方法の一つなので, 他の方法があることも留意すること.

2. 使用するソフトウェア

モデル作成に使用するソフトは以下の通りである.本文書では以下のソフトウェアの詳 しい使い方については解説しない.

LT	Autodesk Inventor 2017
3 MAX	Autodesk 3dsMax 2017
noid	Choreonoid-1.5.0

3. 作成環境

本文書でのモデル作成環境は以下に示す通りである. パーツを結合する際は テキストエディタで VRML97 を編集することになるので, Choreonoid はソー スパッケージからのダウンロードが容易な Ubuntu14.04 で行っている.

Autodesk Inventor 2017	Windows10
Autodesk 3dsMax 2017	Windows10
Choreonoid-1.5.0	Ubuntu14.04

4. 作成するモデル

本文書では、作成する例として以下の図1に示す5自由度マニピュレータであるCRANE+のモデルを作成する

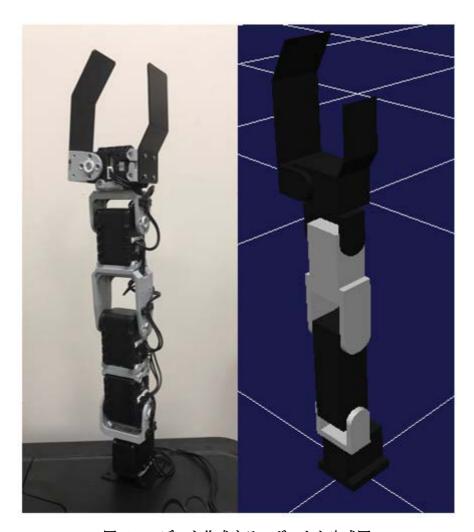


図 1 モデルを作成するロボットと完成図

5. モデル作成手順

本文書での Choreonoid モデルの作成は、Autodesk Inventor 2017 モデルのパーツを作成し、STL ファイルで出力する. 出力したファイルを 3dsMax で VRML97 に変換する. その後、テキストファイルでパーツの結合を行う. それぞれの手順について解説していく.

6. Autodesk Inventor 2017 での Choreonoid パーツ作成

Inventor を立ち上げたら、新規作成のパーツを選択する. (図 2)

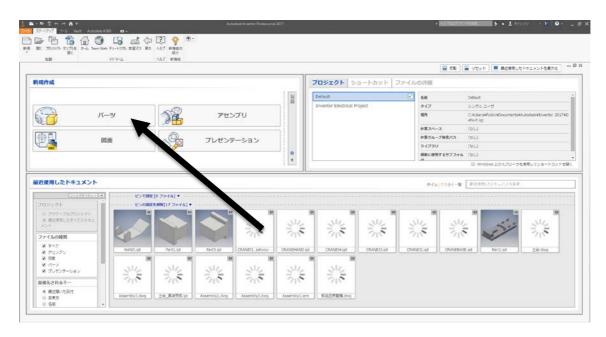


図 2 Inventor 新規作成

2D スケッチ開始をクリックする. (図 3)



図 3 2D スケッチを開始

この 2D スケッチで Choreonoid 用のスケッチをする必要がある.

最初に図面を2次元で書く面を指定するが、ここで図4のように右上ブロックを右の反対にし、ブロックの右上をクリックする.



図 4 2D スケッチ右上ブロック

すると、左下の座標が以下の図5のようになる.

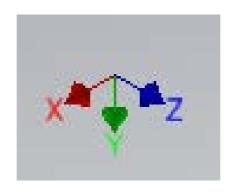


図 5 2D スケッチ座標

この状態で、図6のように XZPlane を選択する.

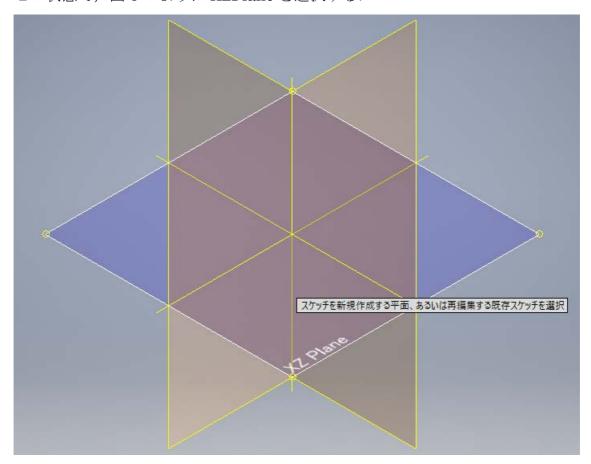


図 6 2D スケッチ XZPlane

すると、右上のブロックが図7、左下の座標が図8のようになる.





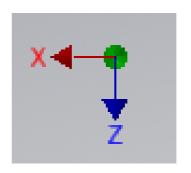


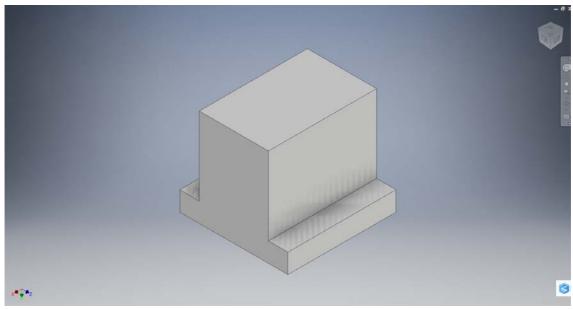
図 8 2次元製図 座標

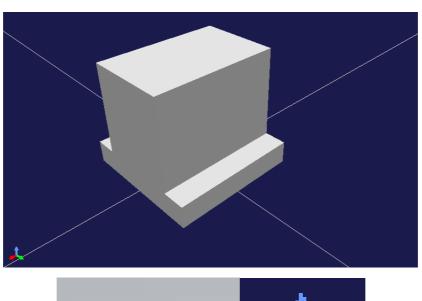
この状態の Inventor の座標が、Choreonoid に変換すると以下の図 9 になる. なお、Choreonoid の座標は赤色が X 軸、緑色が Y 軸、青色が Z 軸である.



図 9 2次元製図 Choreonoid との座標比較

以上の点を留意して、Inventor で 3D モデルを製図する. 完成したパーツモデルが Inventor 上で以下の図 10 の座標のとき、Choreonoid で図 10 の座標で表示される.





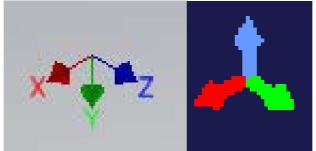


図 10 Inventor と Choreonoid の座標比較

7. VRML97 へのデータ変換

Choreonoid-1.5.0 で表示できるモデルファイルは VRML97 である. そのため, Inventor で 3D モデルを作成したら, そのモデルを VRML97 で保存する必要がある. しかし Autodesk Inventor 2017 では VRML97 で出力する機能はないので, STL ファイルで出力した後に Autodesk 3dsMax 2017 で STL ファイルを VRML97 に変換する必要がある.

まず、Inventor で作成したモデルを STL ファイルで出力する. ファイル \rightarrow 書き出し \rightarrow CAD 形式を選択する. (図 11)

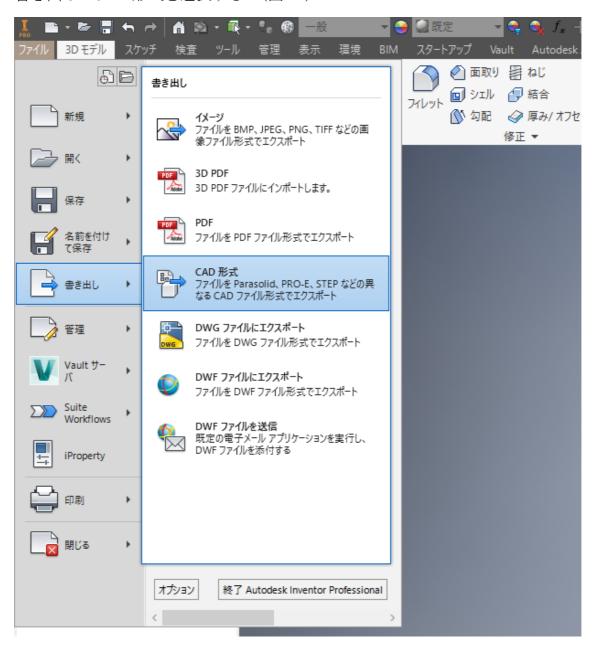


図 11 Inventor 書き出し

ファイル名,保存場所を指定して,ファイルの種類を STL ファイルにして保存する. (図 12)

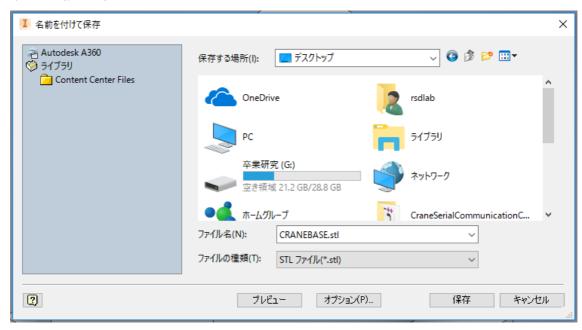


図 12 STL ファイルの保存

STL ファイルの保存ができたら、3dsMax を起動する。3dsMax を起動したら、 左上のファイル \rightarrow インポートを選択し、 先ほど保存した STL ファイルをインポートする(図 13~図 17)。図 16 に関しては、そのまま OK を押せばよい。

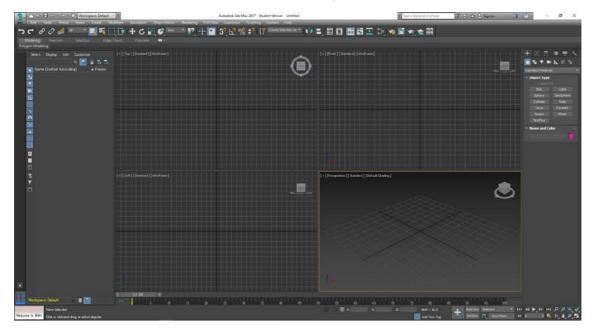


図 13 3dsMax 起動画面

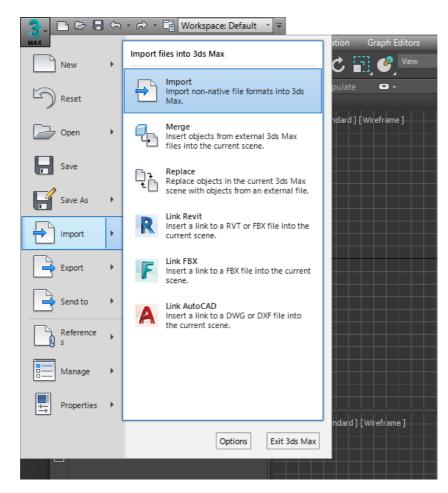


図 14 3dsMax インポート

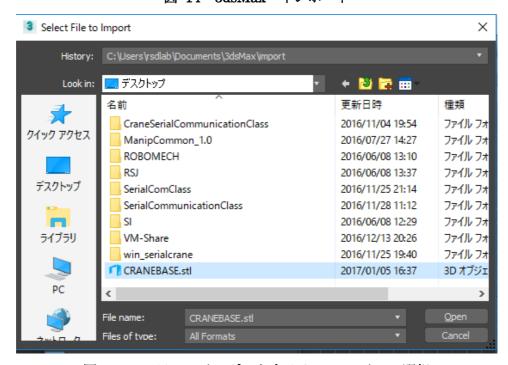


図 15 3dsMax インポートする STL ファイルの選択

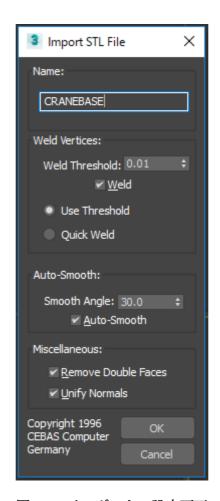


図 16 インポートの設定画面

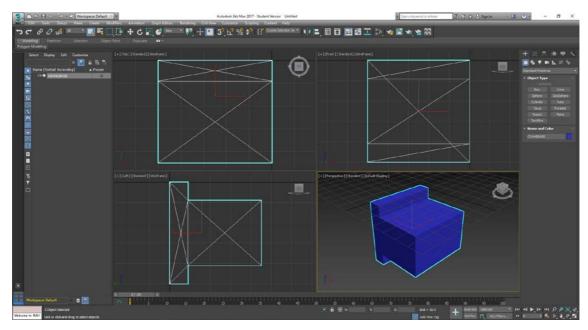


図 17 3dsMax インポート成功

STL ファイルのインポートができたら、そのまま VRML97 にエクスポートする.

左上のファイルからエクスポートを選択する(図18).

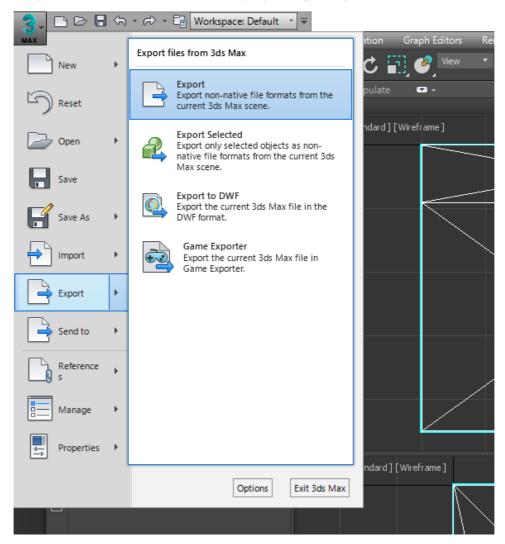


図 18 3dsMax エクスポート

エクスポートを選択したら,ファイル名,保存場所を選択して Save as Type を VRML97 にして保存する(図 19, 20). 図 20 に関してはそのまま OK を押せ ばよい.

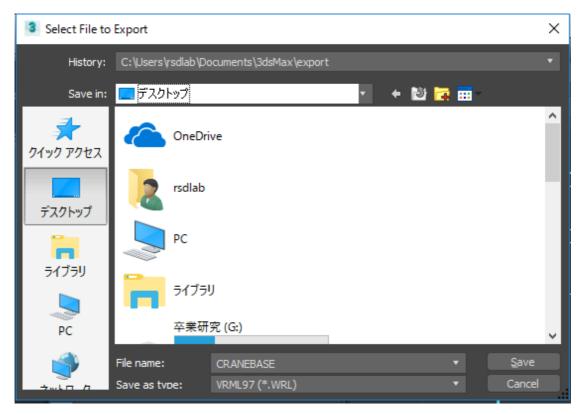


図 19 保存場所,ファイル名

3 VRML97 Exporter	? ×
Generate	
Normals	Coordinate Interpolators
✓ Indentation	Export Hidden Objects
✓ Primitives	
Color per Vertex	
Polygons Type:	Triangles ▼
Initial View:	
Initial Navigation Info	
Initial Background:	
Initial Fog:	
Digits of Precision:	
✓ Show Progress Bar	
Vertex Color Source	
	Calculate on Export
Bitmap URL Prefix	
✓ Use Prefix/maps	
Sample Rates	World Info
	OK Cancel

図 20 エクスポートの設定画面

8. Choreonoid パーツモデル表示

パーツモデルを VRML97 で保存したら、Choreonoid で表示する. しかし、3dsMax で出力される VRML97 の拡張子は.WRL で、Choreonoid では拡張子.wrl しか表示することができないと思われる. そのため、テキストエディタで作成した VRML97 と同名の拡張子が.wrl のファイルを作成し、.WRL の中身をそのままコピー&ペーストする(図 21, 22).



テキストエディタで.wrlを作って.WRLの内容を コピー&ペーストする

図 21 WRLからwrlへの変換

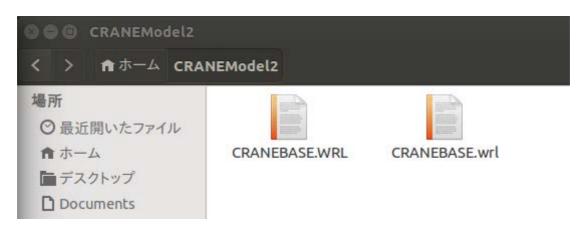


図 22 2 つの VRML97 ファイル

.wrl ファイルができたら、Choreonoid を起動し、左上のファイル→読み込み →OpenHRP モデルファイルを選択する (図 23).

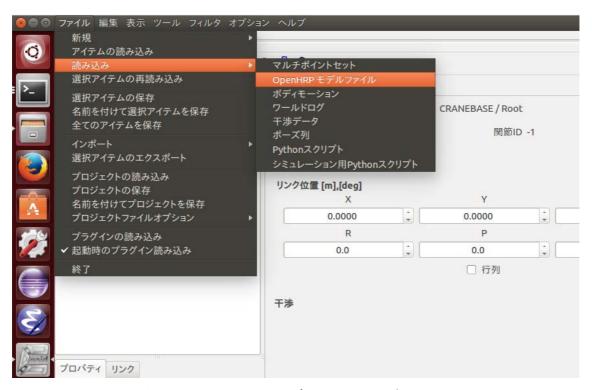


図 23 Choreonoid モデルファイルの読み込み

そこで、先ほど.wrl に変換した VRML97 を読み込みと、以下の図 24 のように Inventor で作成したモデルの 1000 倍の大きさで表示される.

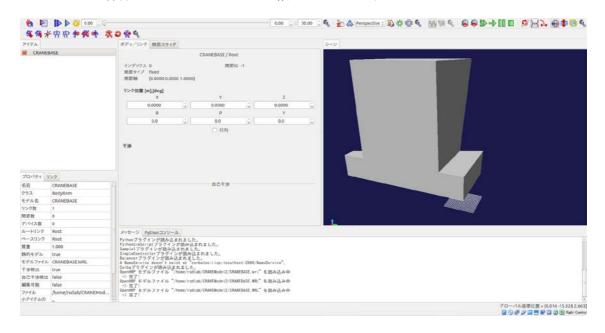


図 24 Choreonoid 1000 倍モデル

そのため、.wrl ファイルを開いてモデルの大きさを 1/1000 にする必要がある. 以下の編集前の図 25 から、図 26 のように、.wrl ファイルに .wrl scale という 1 行を追加する. また、モデルの大きさが 1/1000 になるため、.wrl translation の値も 1/1000 にする. モデルを座標の中心に置きたい場合は、.wrl translation の前 .wrl 2 つの数字を .wrl 0 にする. .wrl (.wrl .wrl .wrl

```
File Edit Options Buffers Tools Help

#VRML V2.0 utf8

# Produced by 3D Studio MAX VRML97 exporter, Version 19, Revision 1072

# Date: Thu Jan 5 16:47:55 2017

DEF CRANEBASE-2 Transform {
   translation -25 -25 15.75
   children [
        Shape {
        appearance Appearance {
            material Material {
                 diffuseColor 0.03137 0.03137 0.5333
            }
        }
}
```

図 25 .wrl ファイル スケール変更前

```
emacs@rsdlab-VirtualBox
File Edit Options Buffers Tools Help
#VRML V2.0 utf8
# Produced by 3D Studio MAX VRML97 exporter, Version 19, Revision 1072
# Date: Thu Jan 5 16:47:55 2017
DEF CRANEBASE-2 Transform {
  scale 0.001 0.001 0.001
                                    変更
  translation 0 0 0.01575
  children [
    Shape {
      appearance Appearance {
        material Material {
          diffuseColor 0.03137 0.03137 0.5333
        }
      }
```

図 26 .wrl ファイル スケール変更後

スケールを 1/1000 に変更すると、以下の図 27 のように実寸大の大きさで Choreonoid に表示される.

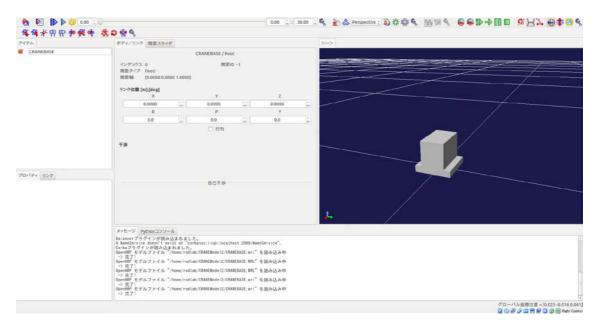


図 27 Choreonoid 実寸大モデル表示

同じように、作成したいモデルのパーツを図28のように Inventor で作成する.

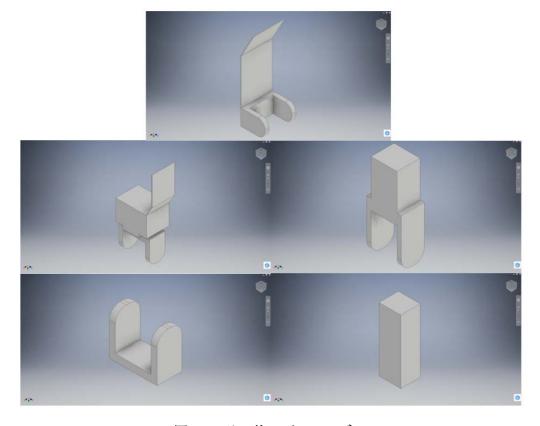


図 28 その他のパーツモデル

9. Chreonoid のパーツの回転軸の設定

Inventorでモデルのパーツをすべて作成し、VRML97に変換してChoreonoidでモデルの表示が確認できたら、すべてのパーツを結合して一つのモデルファイルを作る.

まず、パーツの回転軸の位置を設定する. Z 軸方向に回転する関節は、図 29 のように Choreonoid に表示したときの座標の中心の Z 軸方向が回転軸となる. (translation $\mathcal{O}(x,y)$ を(0,0) に設定している場合のモデルの中心)そのため、図 29 のようにモデルの中心が Z 軸回転軸の場合回転軸の位置を設定する必要はない.

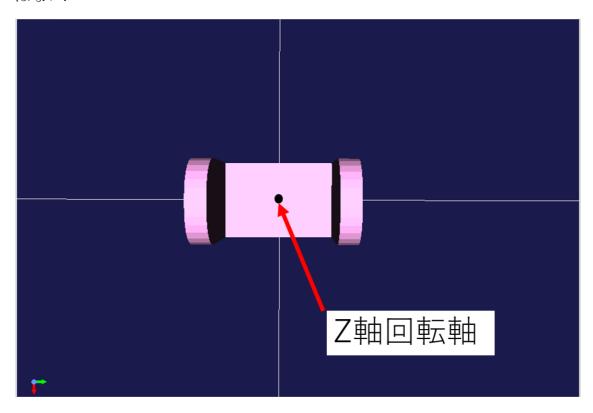


図 29 Ζ軸回転軸の位置

次に、Y軸回転軸を指定する、Y軸回転軸は、図 30 のように Choreonoid に表示したときの座標の中心が Y軸方向の回転軸となる.

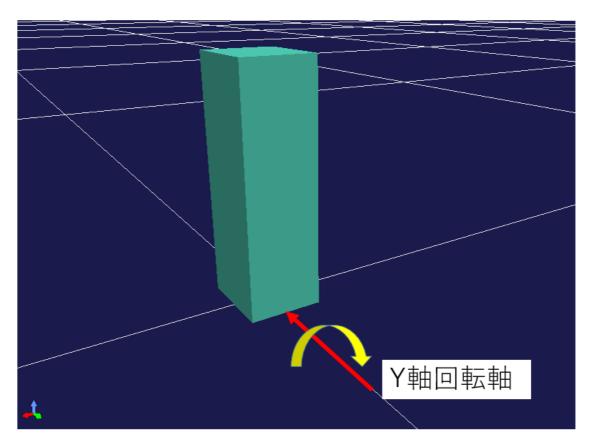


図 30 Y軸回転の位置

今回は、下から 11mm の位置を Y 軸回転軸にしたいので、wrl ファイルを編集して Z 方向にモデルを移動する。図 31 のように、translation の Z 軸の値を-11mm(-0.011)にする。

DEF CRANEJ2-1 Transform {
 scale 0.001 0.001 0.001
 translation 0 0 0.0415 #編集後
 #translation 0 0 0.0525 #編集前

図 31 Y軸設定のために Z 方向にモデル移動

図 31 のように編集すると、モデルが Z 軸方向に-11mm される(図 32).

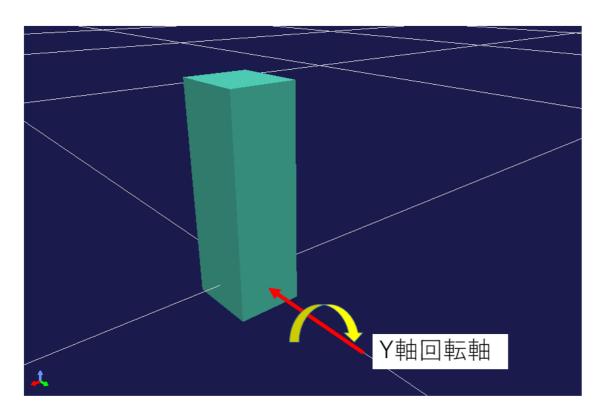


図 32 Z軸方向移動後 Y軸回転軸

X 軸回転するパーツも同様に、図 33 の位置が回転軸となるので、図 34 のように wrl ファイルを編集して回転軸にしたい位置に移動させる(図 35).

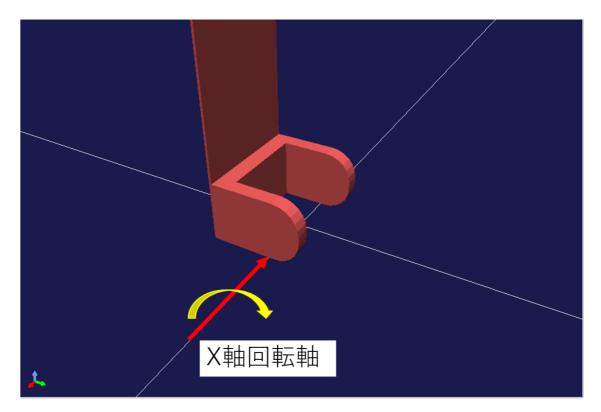


図 33 X軸回転の位置

DEF newCRANEHAND3-2 Transform {
scale 0.001 0.001 0.001
translation 0 -0.00193 0.01475 #編集後
#translation 0 0 0.02725 #編集前

図 34 X軸設定のために ZY 方向に移動

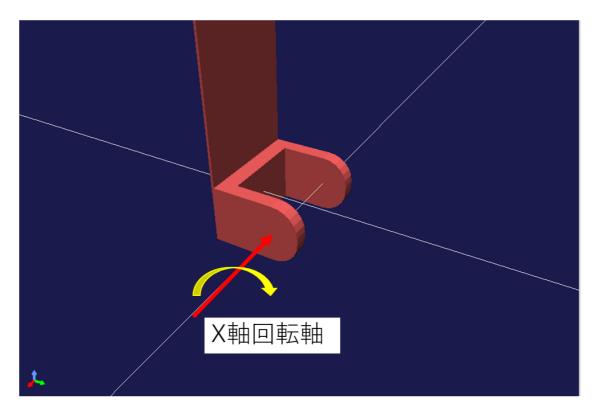


図 35 ZY 軸方向移動後 X 軸回転軸

10. Choreonoid パーツ結合

Choreonoid パーツの回転軸が設定出来たら、パーツを結合したモデルファイルを作る. 今回は、サンプルとして提供されている PA10 のモデルファイルをコピーし、それを編集して作成する. Choreonoid のモデルはリンク構造、動力学/機構パラメータを定義するノードのインスタンスを組み合わせて階層構造を作ることで、モデルを作成してく. 詳細は Choreonoid ホームページの OpenHRP モデルファイルを参照してほしい.

Choreonoid ホームページ OpenHRP モデルファイル

http://choreonoid.org/ja/manuals/1.5/handling-models/modelfile/modelfile-openhrp.html

まず、PA10 のモデルファイルを開くと PROTO ノードが最初に宣言されているので、 すべてコピーする (図 36).

```
# VRML V2.0 utf8
# PA-10 of Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.
# This model file was created with the data provide
                                                        ここから
PROTO Joint [
exposedField SFVec3f
                       center
                                      0 0 0
exposedField MFNode
                       children
                                      []
 exposedField MFFloat
                       llimit
                                      []
exposedField MFFloat
                       lvlimit
                                      []
exposedField SFRotation limitOrientation 0 0 1 0
  Transform {
    translation IS translation
    rotation
               IS rotation
               IS children
    children
                                                    ここまでコピー
DEF PA10 Humanoid {
  humanoidBody [
   DEF BASE Joint {
     jointType "fixed"
     translation 0.0 0.0 0.0
```

図 36 PA10 サンプルモデルをコピー

コピーしたところ以下の Humanoid ノードが、モデルのリンク構造を決定する部分となる. PA10 の Humanoid ノードを確認すると、リンクツリーが以下の図 37 のようになっていることが確認できる.



図 37 PA10 リンクツリー

今回作成したいモデルは5自由度であるため、以下の図38のようなリンクツリ

ーを目指す.



図 38 CRANE+リンクツリー

今回作成したいモデルはリンク構造が PA10 と似ているので, PA10 のモデルファイルの Humanoid 以下をすべてコピーし, J6, J7, HAND_L, HAND_R を削除する. J6, J7, HAND_L, HAND_R を削除するとは, PA10.wrl のコピーが以下の図 39 のようになればよい.

```
children [
                         DEF J5_LINK Segment {
                                                                     joints [
                           mass 3.45
                                                                      USE BASE,
                           centerOfMass 0 0 1.09875
                                                                      USE J1,
                           momentsOfInertia [1 0 0 0 1 0 0 0 1]
                                                                      USE J2,
                           children [
                                                                      USE J3,
                             Inline {
                                                                      USE J4,
                               url "parts/J5.wrl"
                                                                      USE J5
                           ]
                         }
                                                                     segments [
                                                                     USE BASE_LINK,
                    } # end of joint J5
                                                                      USE J1_LINK,
                                                                      USE J2_LINK,
                } # end of joint J4
                                                                      USE J3_LINK,
                                                                      USE J4_LINK,
            } # end of joint J3
                                                                     USE J5_LINK
        } # end of joint J2
                                                                    ]
    } # end of joint J1
} # end of joint BASE
```

図 39 J6, J7, HAND_L, HAND_R 削除後 wrl ファイル

その後、 $BASE\sim J5$ を先ほど Autodesk Inventor で作ったモデルに置き換えていく. 以下の図 40 のように、各値を作成したいモデルの値に変えていく.

```
DEF CRANE Humanoid {
DEF PA10 Humanoid {
                                                                      humanoidBody [
  humanoidBody [
                                                                       DEF BASE Joint {
   DEF BASE Joint {
                                                                         jointType "fixed"
     jointType "fixed"
     translation 0.0 0.0 0.0
                                                                         translation 0.0 0.0 0.0
     rotation 0 0 1 0
                                                                         rotation 0 0 1 0
                                                                         children [
     children [
       DEF BASE_LINK Segment {
                                                                           DEF BASE_LINK Segment {
         mass 3.04
                                                                             mass 0.065
                                                                             centerOfMass 0 0 0.02
         centerOfMass 0 0 0.075
                                                                             momentsOfInertia [1 0 0 0 1 0 0 0 1]
         momentsOfInertia [1 0 0 0 1 0 0 0 1]
         children [
                                                                             children [
                                                                               Inline {
           Inline {
             url "parts/BASE.wrl"
                                                                                 url "parts/CRANEBASE.wrl"
                                                                               }
           }
                                                                             ]
         ]
                                                                           DEF J1 Joint {
       DEF J1 Joint {
         jointType "rotate"
                                                                             jointType "rotate"
         jointAxis 0 0 1
                                                                             jointAxis 0 0 1
                                                                             jointId 0
         jointId 0
         translation 0 0 0.2
                                                                             translation 0.0125 0 0.045
         rotation 0 0 1 0
                                                                             rotation 0 0 1 0
         ulimit 3.08923278
                                                                             ulimit 2.617993878
         llimit -3.08923278
                                                                             llimit -2.617993878
         uvlimit 3.141592653589793
                                                                             uvlimit 3.141592653589793
         lvlimit -3.141592653589793
                                                                             lvlimit -3.141592653589793
         rotorInertia 3.0E-4
                                                                             rotorInertia 0
         children [
                                                                             children [
           DEF J1_LINK Segment {
                                                                               DEF J1 LINK Segment {
             mass 9.78
                                                                                 mass 0.01
                                                                                 centerOfMass 0 0 0.015
             centerOfMass 0 0 0.14818
             momentsOfInertia [1 0 0 0 1 0 0 0 1]
                                                                                 momentsOfInertia [1 0 0 0 1 0 0 0 1]
             children |
                                                                                 children
               Inline {
                                                                                   Inline {
                 url "parts/J1.wrl"
                                                                                     url "parts/CRANEJ1.wrl"
               }
          <sup>3</sup> J
```

図 40 PA10 モデルファイルを編集して自分のモデルへ

ここで、それぞれの値が何を示しているのか以下の図 41, 42 に示す. 図 41, 42 の表は、Choreonoid ホームページ OpenHRP モデルファイルから参照したものである. 参照するパーツのモデルファイルは Segment ノードの children 以下の url に記述する. 図 43 のように、結合するモデルファイルと、パーツファイルをディレクトリに分けるとわかりやすい.

Jointノードのフィールド

フィールド	内容
name	Joint名を指定するフィールドです。
translation	ローカル座標系の位置を設定するフィールドです。親ノードからのオフセット値を指定します。
rotation	ローカル座標系の姿勢を設定するフィールドです。親ノードからのオフセットを指定します。
center	関節回転中心の位置を指定するフィールドです。ローカル座標系原点からのオフセットで指定します。
children	子ノードをぶら下げるフィールドです。0個以上のJointノード、0または1個のSegmentノードをぶらさげます。
jointType	関節タイプを設定するためのフィールドです。free, slide, rotate, fixed, crawler のうちのいずれかを指定します。"free" は任意軸方向への並進・任意軸回りの回転が可能で、rootリンクが固定されないモデルのrootリンクに設定します(6自由度)。"rotate" はjointAxisで指定する軸回りの回転のみ可能です(1自由度)。"slide" は jointAxisで指定する軸方向への並進直動関節となります(1自由度)。"fixed" は関節を固定します(自由度なし)。"crawler"を指定すると、付随するリンクが簡易的なクローラとして機能するようになります。この詳細は クローラのシミュレーションを参照してください。
jointld	関節番号を指定するためのフィールドです。 jointldは関節角度等の属性値を配列形式に並べて格納する際に何番目の要素に入れるかを指定するために利用されます。多くの場合、ロボットのコントローラ開発において関節角度を読み取ったり、指定したりできるのは制御可能な関節のみですから、そのような関節にjointldを付ける、と考えていただければよろしいかと思います(必ずそうでなければならないということではありません)。以下、Idのつけ方に関するルールを示します。jointldはのから始まる。jointldには連続した整数値を用いる(間が空いたり、重複したりしていないこと)。
jointAxis	関節の軸を指定するためのフィールドです。OpenHRPのバージョン2までは文字列の"X"、"Y"、"Z"のいずれかで軸を指定していましたが、OpenHRP3以降ではベクトルを用いて任意方向への軸を指定可能となっています。 旧バージョンの指定法もサポートはされますが、今後は新しい指定法をお使いください。
ulimit	関節回転角度の上限値[rad]を指定するフィールドです。(デフォールト値:"+∞")
Ilimit	関節回転角度の下限値[rad]を指定するフィールドです。(デフォールト値:"-∞")
uvlimit	関節回転角速度の上限値[rad/s]を指定するフィールドです。(デフォールト値:"+∞")
lvlimit	関節回転角速度の下限値[rad/s]を指定するフィールドです。(デフォールト値:"-∞")
gearRatio	ギヤ比: モータから関節までの減速比が1/100で あれば、100と記述します
gearEfficiency	減速器の効率。効率が 60%であれば0.6と記述します。 このフィールドがなければ、効率100%の減速器を想定します。
rotorInertia	モータ回転子の慣性モーメント [kgm^2]

注釈: ulimit, limit, uvlimit, lvlimit については、シミュレーションでは通常使用されません。コントローラがこれらの値を読み込んで限界値を超えないように制御するために定義されているパラメータとなっています。

図 41 Joint ノードのフィールド

Segment ノードのフィールド

フィールド	内容
bboxCenter	OpenHRPでは使用しません。
bboxSize	OpenHRPでは使用しません。
centerOfMass	重心位置を指定するフィールドです。
children	子ノードをぶら下げるフィールドです。ここに、形状を定義するノードを追加します。
coord	OpenHRPでは使用しません。
displacers	OpenHRPでは使用しません。
mass	質量を指定するフィールドです。
momentsOfInertia	重心位置回りの慣性テンソルを指定するフィールドです。
name	Segment名を指定するフィールドです。
addChildren	OpenHRPでは使用しません。
removeChildren	OpenHRPでは使用しません。

リンク形状は、Segmentノードに定義します。Segmentノードは、Jointノードの子ノードとして複数個設定でき、Transformノードの子ノードとして記述することも可能です。

図 42 Segment ノードのフィールド



図 43 パーツファイルを分けるとわかりやすい

モデルファイルができたら、Choreonoid を再起動して、結合したモデルファイルの読み込みを行う(図 44).

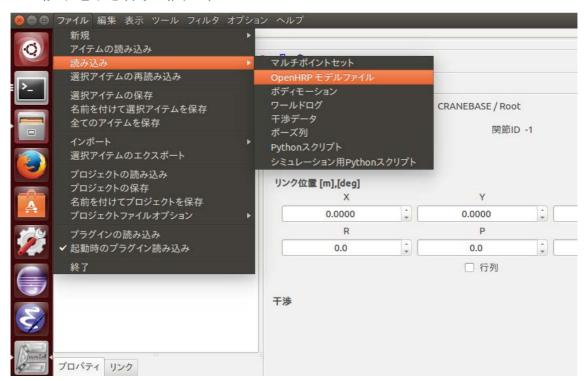


図 44 Choreonoid モデルファイルの読み込み

モデルファイルの読み込みができたら、図45のように表示される.

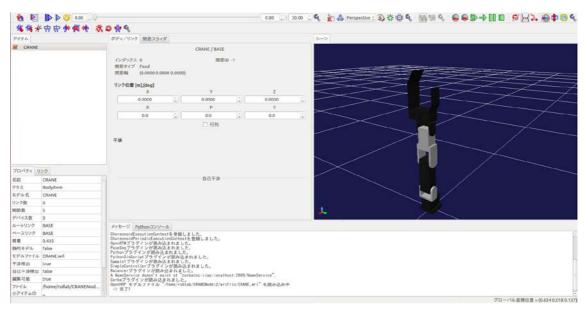


図 45 Choreonoid モデル読み込み成功

アイテムのモデルファイルを選択して、関節スライダを動かして、ジョイントが動くのを確認する(図 46).

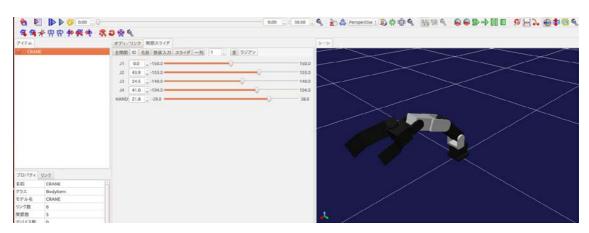


図 46 Choreonoid 関節スライダテスト